

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇2月23日～

先週末に米国の相互関税が違憲という判決が出ましたがトランプ政権は10%の追加関税を課すと表明しました。

この措置は150日間の期限付きになるという話ですが関税問題はまだまだ波乱要因となるので、関連ニュースには注意がいきます。

この違憲判決を受けて、株価は上昇、米国債とドルはやや売られるという動きとなりました。

関税については、今までに払った関税分については返還するのかどうかについては何もわからない状況で、実際にはどんな影響が出るのかははっきりしません。

日本を見ると高市首相が「責任ある積極財政」を打ち出していますが具体的に大きく資金が動くのか不明な部分もあり、アベノミクスのようなダイナミックな動きが継続するかはわかりません。

大きく資金が動かなければ期待先行の相場は崩れていくリスクもあるからです。

特に、為替相場の動きを見ると円安の動きが抑制されていることもあり、日経平均は円安と歩調を合わせて上昇してきたことを考えると今後の動きが気になります。

また、日米関税合意で日本が約束した5500億ドル(約85兆円)の対米投資の第1弾が決まりました。人工ダイヤ、AIデータセンター向けガス火力発電、米国産原油の輸出インフラの3つです。

このうち、火力発電が5兆円と金額的には突出しています。

しかし、米国ではAIデータセンターへの過剰投資は利益がほとんど出ていないということでAIバブル崩壊への警戒感が強まっています。

先週は貴金属(金や銀)や仮想通貨も上昇しているため流れはリスクオンとなっています。

ただし、米国は再びインフレ懸念が出ているため利下げだけでなく、今後は利上げも視野にいれるようです。金融政策がどうなっていくのかますます読めない状況となってきました。

先週発表された米国の指標が強かったことやインフレ懸念などが出てきたためです。

FRBの方向転換となればリスク資産から資金が逃げ出す可能性が出てきます。

さらに、中東情勢が悪化すれば原油が上昇していく可能性があり、そうなると物価高(インフレ)は世界に波及することになります。

すでに原油は上昇してきているため上昇が加速すれば資源国通貨にとってはプラスですが日本円や日本経済にとってはマイナス要因となります。

イランとの交渉が難航しているためトランプ大統領はイランへの限定的軍事行動の時期を探っているように感じます。

今後10日とか15日程度で決断するという話もあり、今月末から来月初めには空爆などが起こるかもしれません。

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### ● テクニカルで見た重要ポイントは？

#### <ドル/円>

先週のドル/円は順調に上昇し、155 円台を回復しました。

155 円台、156 円台はレジスタンス(抵抗)がきているため頭打ちになるかもしれません。

155.8 円を超えて 156 円あたりで上値が重くなってきたら反落に注意したいです。

156.3 円を超えていく動きになれば、2 月高値の157. 6円あたりが視野に入ってきます。

下値は154. 5円を割り込むと 153 円あたりまで下落するリスクがあります。

152 円が重要なサポートとなっているため 152 円を割り込む動きになると円高リスクが高まるため注意がいります。

#### <気になるクロス円>

クロス円も底打ちして、先週は上昇の動きとなりました。

ユーロは 180.8 円を底に 183 円あたりまで戻しています。

183.2 円を超えると 185 円を目指す動きが期待できそうです。

多くのペアで先週は週足が陽線で終わっているため下落リスクは少し落ち着きました。

株価が上昇していけばリスクオンの流れになり、クロス円も上昇が期待できそうです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

#### <今週のファンダメンタル？>

日本では、2月東京都区部消費者物価指数、1 月鉱工業生産などがあります。

米国では 12 月製造業新規受注、12 月ケース・シラー米住宅価格指数、2 月リッチモンド連銀製造業指数、2 月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、前週分新規失業保険申請件数、1 月卸売物価指数、2 月シカゴ購買部協会景気指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏でラガルド・ECB 総裁発言、1月消費者物価指数、ドイツで 2 月IFO企業景況感指数、10-12 月期GDP(改定値)、2月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで 1 月消費者物価指数、カナダで 10-12 月期GDP、12 月GDPの発表などがあります。